

2025年6月4日

学校法人三幸学園
辻学園栄養専門学校
校長 下畠照正 殿

学校関係者評価委員会
委員長 町井 俊彦

学校関係者評価委員会実施報告

2024年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 町井 俊彦（有限会社メデイッシュフードサービス 代表取締役）
- ② 檜山 知子（社会福祉法人 かおる会）
- ③ 江頭 宏明（飛鳥未来高等学校 奈良本校 副校長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025年6月4日（会場 辻学園栄養専門学校 応接室(大)）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024年度 学校法人 三幸学園 辻学園栄養専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 佐藤 俊介

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 町井 俊彦

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和 60 年の開校以来『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「全体会議」や全国の教職員が集まる研修会である「ビジョンミーティング」や「サマーセミナー」において理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「未来デザインプログラム」の授業で使用する「夢のスケッチブック(アプリ版)」に記し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 2024年度重点施策振り返り

学生指導の目標と学校運営のありかたを重点強化ポイントとして取り組みを実施した。

ただ、単年での目標到達、解決に至る内容でもなく、継続して対応すべき課題であるという認識に至った。

(2) 重点強化ポイント

業界で通用する人材の育成 ～マナー教育を丁寧を実施し、習慣化させる～

- ① マナー教育を丁寧を実施し、習慣化する(あいさつ、リアクション(返事)の強化)
- ② 「自ら考え自ら行動する」機会の強化
- ③ 夢・目標を叶えるための「サポート充実」の継続

委員の先生より

(3) 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

就職後も大きな声でのあいさつは重要であるため、今後も学内でのあいさつ指導は継続頂きたい。校外実習に来られる生徒の皆さんのあいさつは、個人差はあるものの、以前に比べて元気の良さは低下している感があり、物足りなさを感じている。

「檜山委員」

現場は厨房機器の音で小さい声は聞こえづらいため、大きな声であいさつすることは重要。また、校外実習生を受け入れた際、各自実習でチャレンジしてみたいことを発表する時間を設けている。大部分の生徒は自身の考えをしっかりと述べてくれる。また、ボランティアに参加してくれる辻学園の生徒は、意欲が高くしっかりと業務をこなしてくれる。

「江頭委員」

本校は通信制高校であり、様々な背景を持つ生徒が在学している。次の進路先を提案するときにも、個々への対応が必要である。また、あいさつは人の顔を見て会釈するのが限界である生徒も多い。スモールステップを意識し、各自の目標設定をたてる必要があり、一律の指導は難しい。しかし、専門学校は社会に出るための訓練校であるため、あいさつ指導の重要性は理解できる。専門学校に送り出す側の高校としてもマナー教育のレベルを上げる必要を感じた。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学園としての理念・学校目標・育成人材像を毎年4月に開催するスタートアッププログラムから習得できるように働きかけている。2024年度保護者会については、昨年同様にオンデマンドにて実施した。ただ、視聴者数が低迷しており、学校と保護者との連携は担任対応にて実施できているが、教育理念の理解度の向上が課題である。

② 今後の改善方策

- ・ホームルームや日々の指導、また「未来デザインプログラム」授業において、良き社会人とは何かということを理解、行動できるように継続指導を行う。また、学校全体としての取り組みとして、クラスの学びの在り方を学習するプログラム(クラススタンダード)を実施、担任と学生による一体的な理念体得を実施する。
- ・担任は、入学後や進級後等の早い時期において面談を通して、生徒の抱える課題を把握し、サポートしつつ、自ら克服できるような機会を設けていく。保護者へ担任から学校生活状況をタイムリーに連携するツールとして「スクレ」を導入した。
- ・生徒の将来に向けて協力関係の構築、生徒育成をより強固にすることを目的に、今後も継続して実施する。

③ 特記事項

三幸学園のビジョンをふまえ、辻学園栄養専門学校におけるビジョンを「食を通じて、日本を明るく元気にする」と設定している。また、育成人材方針を「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」と設定し、社会の求める「調理のできる栄養士」の輩出を目指している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

学校側は以前に比べ、保護者対応に力を注いでいることが理解できた。保護者様によっても学校に求める事が違うと思われるので、ぜひ良い関係性を築いていただきたい。調理ができる栄養士は辻学園の特色である。今後も辻学園の特色ある卒業生輩出に努力いただきたい。

「檜山委員」

保護者様に辻学園の教育理念をご理解いただくためには、保護者様が参加できる学内イベントを検討いただきたい。

「江頭委員」

専門学校同様、高校でも保護者様とのつながりを持つことには苦戦している。保護者様との新しい連絡ツールの報告があったが、活用事例も共有いただきたい。

「学校よりの回答」

保護者様用の連絡ツールは 2025 年度より導入した。連絡方法は、クラス単位、個人単位で可能である。また、PDF データも送信できるため、学校からの郵送物も削減することができている。昨年までは、保護者様との連絡方法は電話中心ではあった。電話可能時間を保護者様に合わせる必要があったため、担任の負担が大きいことが課題であった。しかし、簡単な連絡であればこのツールを使用でき、担任の業務効率化が図れている。まだまだ試行錯誤状態であるため、効果的な活用を模索中である。保護者様参加のイベントとして、2 点ご報告したい。1 点目は、2 年生保護者様対象の給食実習試食会である。また、同じく 2 年生保護者様には、卒業研究発表会の辻学園フェスティバルでは保護者様を招いてのイベント実施している。昨年は約 100 名の保護者様が来校された。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

業務の効率化に向けて、情報処理速度と勤怠管理のバランスが重要。また、自己目標の設定、それに対する自己業務マネジメント力の向上が課題である。

② 今後の改善方策

様々な校務(学校運営に必要な業務)を担当、互いに理解することにより、学校運営に寄与していることを意識させる。担当したことのない校務でも興味を持つこと、また、なぜそれが必要であるか理解することも重要な位置づけである。また、互いに協業することで、より効率的に結果が出る働き方であることを意識させる。中途採用した場合においても、教員としてのニーズに応えられるように研修を重ねることは重要である。

③ 特記事項

校務の透明化、共有化が働き方の質向上に繋がることを意識して、組織的な改善に繋げている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

業界とのつながりを強化するためには、まず地域に働きかけることで、何かしらの反応はあるのではないかと。また、労働状況や働き方については、現代に合わせていくべきだと考える。社員にもそれぞれの考えもあるが、最終的に重要なのは、企業として成果が期待できることと、社員同士が働きやすい環境になればよいと思う。

「檜山委員」

専門学校の業務と同様に、勤務先の老人ホームの業務も多岐にわたる。業務環境の向上で意識していることは、業務ミーティングである。話し合いには、時間をかけてお互いの業務を共有し、利用者様の満足度をあげる努力をしている。より良い業務環境のためには、お互いを理解し、業務内容を共有することは重要である。

「江頭委員」

学校運営は非常に難しい課題である。高校でも常に思い悩んでいる。メンバーには、組織に所属しているという認識を持たせることを意識している。また、社員教育において「教える」「指導する」は一方的になりがちである。上司は若手社員に常に問いかけをし、メンバーの考えを引き出す会話術も重要である。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

ICT 化が進み、教育の効率化が進む一方、生徒が自ら考え、行動する力を求められている。一方で、読み書きのような基礎学力が伴わない生徒も多く見受け、特に返事、挨拶といった基本的な社会人としてのマナーが習得できていないことが目立つ。

また、周囲の人間関係などの環境に左右される生徒が多く見られ、課外研修を通じて対応している。学年進級時において、クラス替えにより、これらを再構築する必要性があることも課題である。

② 今後の改善方策

授業にて使用する各種アプリなどのレクチャーは適宜指導できている。社会人基礎力向上に向けて、ビジネスマナー授業にて指導、また、平素の生徒と教員の関わりの中でも社会性が向上できるように対応している。また、2025 年度は卒業生を講師に迎え「学び教室」を開催し、在校生の基礎学力向上に寄与する。

③ 特記事項

継続してイオンリテール株式会社様、大起水産株式会社様との産学連携商品開発を行った。お弁当、惣菜、お寿司と幅広く開発に関わり、消費者目線、低迷する消費の中、どのようにニーズを掘り起こすかを勉強する機会を得ることができ、教育的効果を高めることができた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

栄養士は、人に食べていただき喜んでもらう職種であると考えます。産学連携により、人に喜びを提供できる機会が学生時代にあることは素晴らしい。学生時代の様々な経験は、栄養士の仕事への理解、さらにはもっと学びたいと思う原動力にもなると感じる。

「檜山委員」

自身の生徒時代は産学連携の職業教育がなく、今の生徒をうらやましく思う。校外実習は短期間での学びしかできないが、このような取り組みを通して、栄養士への理解の他、あいさつまナーの向上にも役立と感じる。

「江頭委員」

社会との関わりの機会をもてるのは、専門学校の醍醐味の一つであろう。これらの取り組みは、高校生にも伝わりやすく、高等学校教員としても安心して進学を進められる。また、卒業生を講師として迎える試みは、勉強面のサポートのみでなく、メンタルサポートにも有効である。生徒にとって、自身の存在を認めてもらえる近しい先輩がいる環境づくりは、良い取り組みだと感じた。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

生徒に対して個々の細やかな対応が求められる年度であった。人間関係の構築に難しさを感じる生徒も多くいた。

チーム担任制を実施し、様々な視点での生徒状況の把握と休退学防止を図った。卒業後の職業イメージについては、就職活動をせず、安易に楽な働き方を希望する生徒も見受けられる。将来設計を含め生徒自身のこれからを考えるような指導力を教員が持つことが課題。

② 今後の改善方策

退学率低減に向けて、教員が様々な生徒に関わり、様々な学校生活の楽しさ、そして将来の仕事の魅力を伝えていくことが重要。業界内就職向上に向けても、いかにして魅力のある仕事であることを注力したい。

③ 特記事項

退学率 2024年度 5.2% / 2023年度 5.2%

就職率 2024年度 99.3% / 2023年度 99.3% *就職希望者としての数値

④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

2024年度は細やかな対応が必要な生徒が多かったとの報告があり、今の時代を反映しているのかという感想を抱いた。更に調理に関わらない就職先を希望する生徒が多いとの報告もあった。これは、栄養士が働く現場や就職先が多くなったため、生徒が様々な選択ができることも要因の一つかと思われる。

「檜山委員」

大量調理をやりたいがらない生徒が多いとのことであるが、メディアが、カフェ、商品開発、スポーツ栄養などの華やかな現場をとりあげることも要因だろう。しかし、大量調理は栄養士業務の基礎になるものである。基礎力をしっかりと身に付け、専門職としてのプライドをもてれば、大量調理現場を含め様々な現場で活躍したいという気持ちにもなるのではないか。

「江頭委員」

栄養士の求人や職の幅が広いということは新しい発見であった。改めて入学当初の思い描いていた栄養士像と、就職活動時のギャップを少なくしていくことの重要性を感じた。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

進路・就職の希望調査を早期に実施する事により、本人の希望に沿った対応ができている。

ただ、業界内であっても細やかな就業希望を申告する学生も少なからず見受けられるようになり、対応が必要である。

また、「コミュニケーションサポートルーム」とさらに「フリースペース」を設置開放することにより、生徒の心の安定を図っている。別途、保護者との連携は担任を通じて継続実施する。

② 今後の改善方策

様々な環境を過ごされた生徒の今迄の状況を把握するためにも、早期の生徒面談は必須であるが、担任も制約ある時間の中、計画的な対応に追われている。

チーム担任制のメリットを生かし、生徒が相談しやすい環境を提供している。高専連携については姉妹校よ

り始めているが、他の高校などにおいても状況に応じて以前在籍した高校へ情報提供を受けるなどの対応は必要。

卒業した生徒への連絡は同窓会 LINE を中心に実施しているが、LINE の運営開始以前の卒業生への拡散が大きな課題となっている。現状は、都度、機会を見ては促すに留まっている。

③ 特記事項

同窓会については LINE などの利用を促してはいるが、卒業前に登録の促しが課題。

④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

辻学園栄養専門学校は歴史が長いため、多くの卒業生がいる。これは辻学園の財産の一つである。その財産を生かせば在校生にも良い影響があるのではないか。

「檜山委員」

学内への卒業生の出入りを頻繁にしていれば、就職支援などのサポートも期待できるのではないか。

「江頭委員」

生徒への支援は本当に難しく、近い人との関わりができる環境作りは重要である。一方で課題として感じているのは、依存度が高い生徒が多くなっている現状である。在学中に依存の傾向が強すぎると社会に出たときに自立することが困難となる。在学中は、一人の教員のみならず、様々な人間関係を築けるような生徒支援が重要である。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

施設の老朽化に伴い、教育機器の修繕、入れ替えの必要性が課題となった。また、校外実習の早期受け入れ態勢の整備を実施、海外研修については、集団渡航する前のレクチャーが課題である。

② 今後の改善方策

施設について、全館 LED 化を実施。また、2025 度は給食管理施設における座学兼試食スペースの教室の全面改装を実施した。教育機器に関しては、適宜必要に応じて入れ替え、または購入を実施している。ただ、各研修については実施前に目的や注意点など事前勉強会を実施、事前準備を適切に行う事が課題である。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

真空調理やスチームコンベクションの操作を学ぶことも良いが、それ以前に調理の基礎が重要である。集団調理ではスチームコンベクションを使用することが多いので、できれば自身で操作できることが望ましい。クックチル調理は就職先での利用の有無が変わってくる。これに関しては、知識としてあればよいかと思う。マニュアルでの指導と調理作業指導の両方が整った教育環境を期待したい。

「檜山委員」

調理技術は現場に出てからの日々の作業で上達するものと考えている。また、調理技術だけでなく、パソコン技術や文章作成能力も必要である。

「江頭委員」

今の世代はスマホ世代であり、映像や動画から理解することが得意である。逆に言葉や文章での理解が不得意であるため、生徒の世代にあった教材等の工夫は必要かと思う。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

学生募集時、職業の魅力、学校の魅力を先にイメージしてもらい、その中で、本学の学びの楽しさを伝えるよう心掛けている。

また、栄養士資格に関する学びのみならず、年間行事など、様々な学外での取り組みや学びについて事前に話すことにより主体的に取り組むことや、今迄体験したことのない集団生活での学びがあることを全教員が伝えるようになること、生徒に伝わることを課題である。

② 今後の改善方策

募集活動時、職業の魅力、年間行事など、その時期における学校生活の過ごし方を伝え、集団行動が難しい。学生に対し、アドバイス、出来得る対応についても事前説明を行い、入学後のギャップが生じないように務める。

③ 特記事項

自身の学力の特徴を把握させ、また本校も把握するために、入学前に基礎学力テストを実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

「檜山委員」

私自身、学内では苦手科目はあった。学力が低い生徒でもいかに楽しく学べる工夫をしていただきたい。また、教員の経験を語ることでより栄養士の職の理解が深まるのではないかと。

「町井委員」

自身を振り返ると、栄養士の理解を十分にして社会に出たかと思うと疑問である。しかし、現在も栄養士として働いていることを考えると、どこまで栄養士を理解させるのかも難しい。

「江頭委員」

ちゃんと伝えられているかと思う。しかし、生徒の理解が追い付いていないのではないか。栄養士のイメージと内容が合致していない。理解しているかの問いをしていくのはどうか。高校生がどう感じたのか確認していくことも大切ではないか。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

関係法令の遵守と適正な運営を心掛けて運営する。特に個人情報の取り扱いは細心の注意を払い、運営に支障をきたさないよう社内規定遵守を徹底する。

② 今後の改善方策

引き続き、社内規定の遵守を促す。規定改正の際、全教員の会議にて全員が共有できるように務める。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

能登半島震災後、現地へバスにて移動して炊き出しを実施した。8月、心臓啓発ボランティアの啓発イベントに参加した。

① 今後の改善方策

地域貢献として公開講座の実施には至っていない。2025年度、同窓会においては地域貢献できるイベントに参加する予定である。

② 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

「檜山委員」

辻学園栄養専門学校の子供達には 2024 年秋祭りのボランティアにお越しいただいた。スタッフや利用者様にも好評で、他校の学生さんとの交流も図れていた。ボランティア活動は地域貢献の一つとして推奨したい。

「町井委員」

卒業生は積極的に、母校の同窓会に参加し、集団給食現場の現状などを伝えることができるのではないかと。同窓会には、卒業生だけでなく在校生や地域の方も参加できる開かれた同窓会を実施すれば地域貢献にも役立つと考える。

「有山委員」

公的機関、小学校、福祉施設などで地域貢献を求めている施設はあるのではないかと。積極的に訪問して地域の要望をヒアリングしてみるのはいかがでしょうか。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ① 一般的な社会規範である挨拶、返事などができない生徒がさらに多く見受けられるようになった。また、基礎的な学力不足を感じる。良き社会人育成という観点にて指導していきたい。
- ② 教育に関して現場との状況と差異が無いか、設備のみならず、技術水準なども含め、卒業時に不利益にならないよう、情報交換、鋭意教育水準の向上に務めたい。
- ③ 卒業生への繋がりを現教職員からアプローチするように投げかける。特に同窓会において、卒業後の年数と比例して参加率が低い。まずは、繋がりを作るように務める。
- ④ 業界の仕事の魅力はどこにあるのか、様々なキャリアのある教員からホームルームなども利用して都度生徒へ伝える機会を増やし、働く動機の向上に務める。

「町井委員」

栄養士の職域は幅広いが、校外実習の受け入れや新入社員には、集団給食の現場を知ってもらうようにしている。集団調理が、自身に合うか合わないかはあるかもしれない。その場合、無理をして長く就業する必要もないかとも感じることもある。

「檜山委員」

現場では即戦力と向上心が求められる。向上心を伸ばすためには、栄養士の仕事が楽しめる環境作りが必要だと考える。そのため校外実習の受け入れで意識しているのは、とにかく実習を楽しんでもらえる工夫である。

「江頭委員」

今回の会議では、栄養士の職について理解することができた。高等学校の教員としては辻学園の教育方針並びに栄養士の職を理解することで、安心して生徒を送り出せることが理解できた。高校生が専門学校や栄養士としての職を理解できなければ、進学には繋がらない。また、進学後の学びを充実させるためにも、高校では基礎的な学びを修得させる使命を感じた。

「副校長 上田より」

町井委員、檜山委員のお二方については、長期にわたり委員を就任いただき感謝申し上げます。また、江頭委員からは、安心して送り出せる進学先というお言葉を頂戴した。

今後も、三幸学園の教育目標のもと、時代に合った指導、主体的に学びたくなる環境の提供、入学前後の就業ギャップ低減、生徒への教育還元に努めていきたい。

以上